

魅力

自然 温泉・リゾート

体験・イベント

漁業関係者との協働で、滞在力のある通年型の多幸(タコ)の島、福(フグ)の島へ



地元で獲れるタコやフグを使ったPR活動に加え、地元観光業者と漁業関係者との協働で行う自然体験漁業プログラムや癒しをテーマにしたイルカふれあい事業等幅広い活動をおこなうことにより、島内人口2,300人弱に対し、年間約20万人の宿泊者が訪れるご近所リゾートとなっている。



東港と西港にあるタコのモニュメント

入込客数

平成14年(2002)	30万人
平成15年(2003)	27万人
平成16年(2004)	29万人
平成17年(2005)	27万人
平成18年(2006)	26万人

漁業体験者数

南知多町観光統計

平成14年(2002)	4,925人
平成15年(2003)	6,852人
平成16年(2004)	6,239人
平成17年(2005)	6,955人
平成18年(2006)	6,697人

取組

PR・誘致活動

体験・イベント開催

地場産業

通年型、多幸(タコ)の島 福(フグ)の島への転換

昭和57年頃より地元で水揚げされるタコを島のキャラクターとして誘致活動を行なう。その後、冬の閑散期の誘客として、地元で水揚げされ西日本へ流通されていた、とらふぐを冬場の観光資源にできないか着目した。

この案は、冬場の漁業関係者の奥さん等の雇用確保に繋がるということで、漁業関係者の協力が得られることとなり、講師を招き調理の勉強を行った結果、現在では約70軒で安価なフグ料理が出せるまでになった。現在も毎年10月に「てっさコンテスト」を行い調理の腕を競っている。PR活動として鉄道会社との商品開発や各地へのキャラバン誘客活動、そしてグルメブームにのり、現在、宿泊者数は秋冬期が約11万人となり、春夏期約9万人を凌いでいる。



タコ・フグ料理

自然体験漁業プログラムの確立



タコのつかみ取り

平成9年より島の魅力を都会や山間部で生活する小学生をターゲットに漁業体験を模索する。特に春の閑散期に臨海学校誘致を目的に地元観光業者と漁協関係者が協力して自然体験漁業プログラムを始める。メニューは漁船網漁や、干物づくり、タコつかみ取りなどさまざまなコースがあり、現在は多くの生徒を受け入れており、春期は島の中にジャージ姿の学生を多く見かける。

イルカふれあい体験事業の再開

平成18年に再開したイルカのふれあい体験事業。日間賀島の美しい海の環境を最大限に活用したプログラムを作成。NPO法人、大学関係者の協力により自閉症治療や一般向けのイルカセラピーを通じて、体と心の健全育成を目指しており、社会貢献の事業に積極的に取り組んでいる。またその活動が島への誘客PR活動に貢献。



イルカとのふれあい体験

南知多町商工観光課
TEL:0569-65-0711 URL:http://www.town.minamichita.lg.jp

滞在力のあるまち